

プレカット業界に迫る 2024 年問題と 2025 年問題

国土交通省が発表した2022年（1月～12月）の新設住宅着工戸数は85万9,529戸で、依然として90万戸を下回っているが、2年連続の増加となった。前年比では0.4%の微増となり、過去10年間で見ると下から3番目の水準となっている。

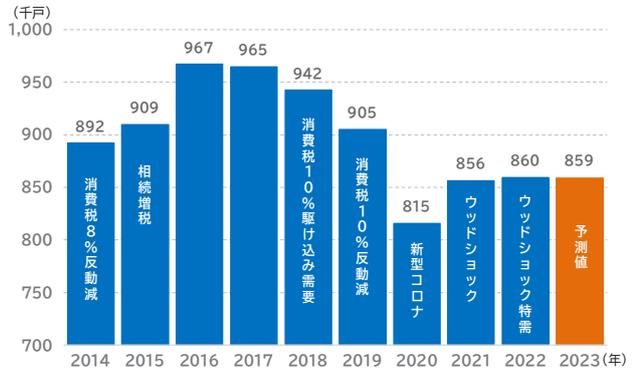
利用関係別に見ると、持家は前年比11.3%減の25万3,287戸で、昨年の増加から再び減少に転じ、過去10年間で最も低い水準となった。一方、貸家は7.4%増の34万5,080戸、分譲住宅も4.7%増の25万5,487戸で、いずれも2年連続の増加となっている。また、工法別（木造）では、軸組木造は前年比4.9%減の37万6,506戸、2×4も5.0%減の9万1,233戸で、いずれも昨年の増加から再び減少に転じている。

持家の減少については、2022年の前半は新型コロナ禍の影響による住宅展示場などの集客減、後半は深刻化するウクライナ情勢の影響を受け、資材価格高騰・物価高・住宅価格上昇など、消費者マインドの低下を招いたことが主な要因と見られている。

こうした市場動向を受け、木造住宅のCAD/CAMシステム大手のネットイーグル(株)（福岡県福岡市、祖父江久好社長）では、1月10日から2月10日の約1ヵ月にわたって全国のプレカット工場を対象としたアンケート調査を実施。対象となった301社中216社（回答比率71.8%）から回答を得ており、今年2月にその調査結果を公開した。

ウッドショック特需を考察

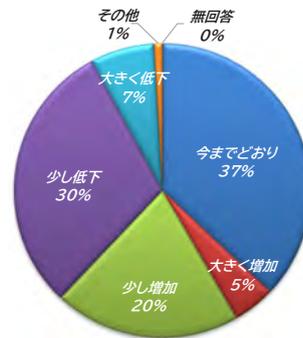
今回のアンケート調査でもウッドショックに関する質問が冒頭に並んだ。「Q1：ウッドショックが特需となった今期の状況についてお尋ねします」の「Q1-1：稼働状況はどうでしたか？」では「今までどおりで稼働した」が80社（37.0%）となったが、その一方で「大きく稼働が増加した」が10社（4.6%）、「少し稼働が増加した」が44社（20.4%）となった。また、



新設住宅着工戸数の推移 (年次別)

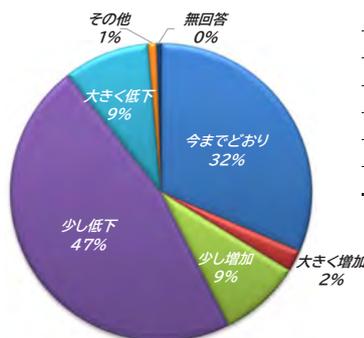
項目	2022年 (1~12月)			2021年 (1~12月)	2020年 (1~12月)
	着工戸数	増減	前年比%		
総戸数	859,529	3,045	100.4%	856,484	815,340
持ち家	253,287	▲32,288	88.7%	285,575	261,088
貸家	345,080	23,704	107.4%	321,376	306,753
分譲住宅	255,487	11,543	104.7%	243,944	240,268
軸組木造	376,506	▲19,297	95.1%	395,803	365,453
2×4	91,233	▲4,785	95.0%	96,018	93,009

新設住宅着工戸数の推移 (利用関係別)



今までどおりで稼働した	80	37.0%
大きく稼働が増加した	10	4.6%
少し稼働が増加した	44	20.4%
少し稼働が低下した	65	30.1%
大きく稼働が低下した	15	6.9%
その他	2	0.9%
無回答	0	0.0%
Total	216	

Q1-1：稼働状況はどうでしたか？



今までどおりで稼働する	68	31.5%
大きく稼働が増加する	5	2.3%
少し稼働が増加する	19	8.8%
少し稼働が低下する	101	46.8%
大きく稼働が低下する	20	9.3%
その他	2	0.9%
無回答	1	0.5%
Total	216	

Q1-2：今後の稼働状況の見通しはどうですか？

「Q1-2：今後の稼働状況の見通しはどうか？」では「今までどおりで稼働」が68社（31.5%）、「大きく稼働が増加」が5社（2.3%）、「少し稼働が増加」が19社（8.8%）、「少し低下」が101社（46.8%）と推移。ウッドショックの反動は起こるものの、木材価格が高値安定で推移しているため、今後も好調が続くと見ることができる。

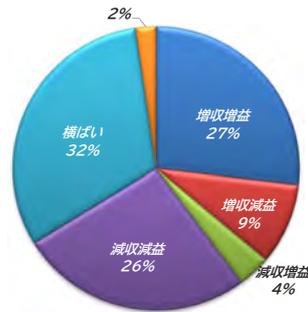
「Q1-3：今期の業績予測は、どんな状況ですか？」については、2022年は前期の業績が良すぎたため、「増収・増益」が58社（26.9%）と、昨年の106社（47.1%）から大幅に減少。その一方で、「減収・減益」は57社（26.4%）と、昨年の27社（12.0%）の倍以上となった。しかしながら、「Q1-5：ウッドショック特需は業績にどう影響しましたか？」では、「大きくプラス」が58社（26.9%）、「ややプラス」が77社（35.6%）と、6割以上がプラスに影響したと回答しており、全体的な景況は上向きとなっている。

「Q1-6：ウッドショックによる木材価格の高騰は、いつまで続くと思われますか？」の質問では、「あと3ヶ月」が48社（22.2%）と最も多く、次いで「あと6ヶ月」が34社（15.7%）、「1年」が17社（7.9%）となっていることから、今年の前半から年内にウッドショックも落ち着くのではないかと予測できる。

建設業における働き方改革の影響

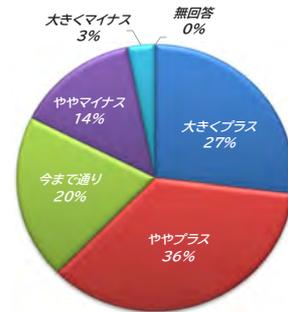
これまで、建設業については、36協定で定める時間外労働の上限の基準（大臣告示）は、適用除外とされてきたが、2024年4月1日以降、時間外労働の上限は原則として月45時間・年360時間となり、臨時的な特別の事情がなければこれを超えることができなくなる。これに関連して、「Q2：2024年4月から建設業の『時間外労働（残業）の上限規制』が施行されますが、ご存知ですか？」の質問では、「知っている」が143社（66.2%）と7割弱を占め、業界内でも強い関心事となっていることが分かった。

また、前項の143社に対して「Q2-1：残業の上限規制は、影響があると思いますか？」と聞いたところ、「影響は大きい」が17社（11.9%）、「影響ある」が73社（51.0%）と6割以上が建設業の働き方改革により何らかの影響が必出すると見ている。加えて、



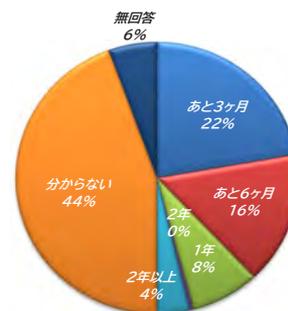
増収増益	58	26.9%
増収減益	20	9.3%
減収増益	8	3.7%
減収減益	57	26.4%
横ばい	68	31.5%
無回答	5	2.3%
Total	216	

Q1-3：今期の業績予測は、どんな状況ですか？



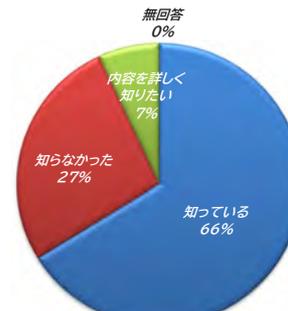
大きくプラス	58	26.9%
ややプラス	77	35.6%
今まで通り	43	19.9%
ややマイナス	31	14.4%
大きくマイナス	7	3.2%
無回答	0	0.0%
Total	216	

Q1-5：ウッドショック特需は業績にどう影響しましたか？



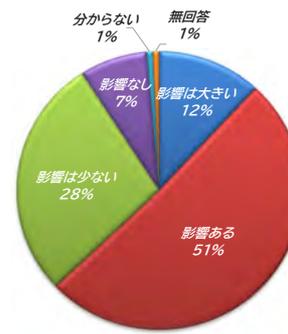
あと3ヶ月	48	22.2%
あと6ヶ月	34	15.7%
1年	17	7.9%
2年	1	0.5%
2年以上	8	3.7%
分からない	96	44.4%
無回答	12	5.6%
Total	216	

Q1-6：木材価格の高騰はいつまで続くと思いますか？



知っている	143	66.2%
知らなかった	58	26.9%
内容を詳しく知りたい	15	6.9%
無回答	0	0.0%
Total	216	

Q2：「時間外労働（残業）の上限規制」をご存知ですか？



影響は大きい	17	11.9%
影響ある	73	51.0%
影響は少ない	40	28.0%
影響なし	11	7.7%
分からない	1	0.7%
無回答	1	0.7%
Total	143	

Q2-1：残業の上限規制は、影響があると思いますか？

「Q2-2：どの部門に影響が出るとお考えですか？（複数回答可）」の質問では、「CADオペレーター」が82社（33.6%）、「工場」が77社（31.6%）と双方合わせて6割を超えており、これまで時間外労働によって工場稼働を安定させてきた部門において顕著な影響が出てくると考えられる。

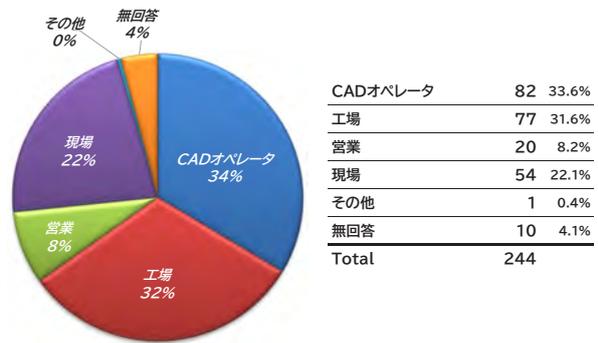
ウッドショックとCADオペレーター不足

「Q3：今期、CADオペレーター不足を感じましたか？」の質問には、「強く感じる」が61社（28.2%：前回調査では28.4%）、「少し感じる」が95社（44.0%：前回調査では44.9%）、「感じない」が51社（23.6%：前回調査では24.0%）と、前回からあまり変化は見られなかった。これは、ウッドショック特需によるプレカット工場の稼働率アップが大きく影響していると推察されるが、いずれにしても7割以上のプレカット工場がCADオペレーターの不足を実感している結果となった。現状の対策としては代行入力会社の利用や、新規雇用（CADオペの養成）、海外CADセンターの設立などが挙げられている。

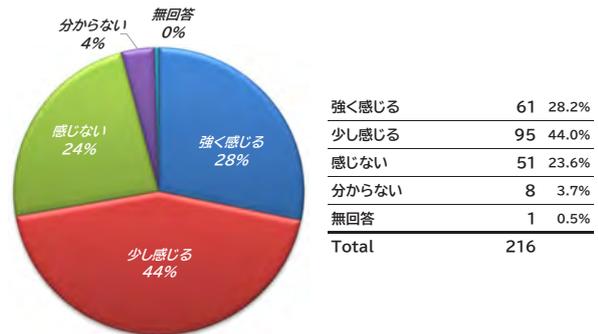
依然として続く現場の職人不足

CADオペレーターと同様に人手不足が深刻化している現場の職人不足についても前回調査から大きな変化は見られなかった。「Q4：今期、職人不足を感じましたか？」の質問には、「強く感じた」が49社（22.7%：前回調査では18.7%）、「少し感じた」が107社（49.5%：前回調査では50.7%）と、依然として約7割が人手不足を実感している。また、「強く感じた」、「少し感じた」と回答したプレカット工場に「Q4-1：職人不足を感じたのはどの工事ですか？（複数回答可）」と質問したところ、「大工工事」が140社（55.1%）、「基礎工事」が71社（28.0%）と、8割近くが躯体に関わる工事となっており、依然として慢性的な職人不足が続いていることが分かる。

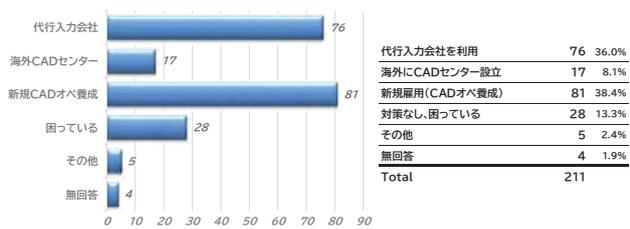
こうした職人不足に対して「Q4-2：職人不足に有効な対策はどれだと思いますか？（複数回答可）」の質問では、「プレカット+建方工事」が28.5%、「多能工社員の養成」が23.0%、「軸組パネル化」が



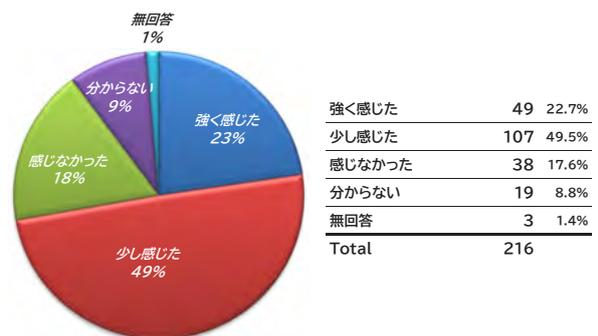
Q2-2：どの部門に影響が出るとお考えですか？



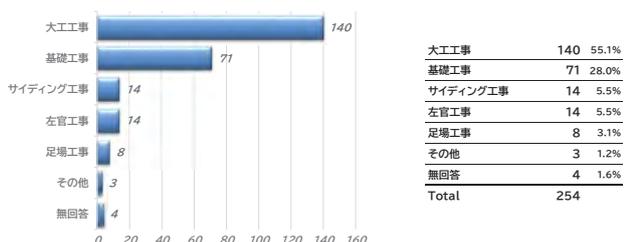
Q3：今期「CADオペレーター不足」を感じましたか？



Q3-1：対策をとられていますか？



Q4：今期「職人不足」を感じましたか？



Q4-1：職人不足と感じたのは、どの工事でしたか？

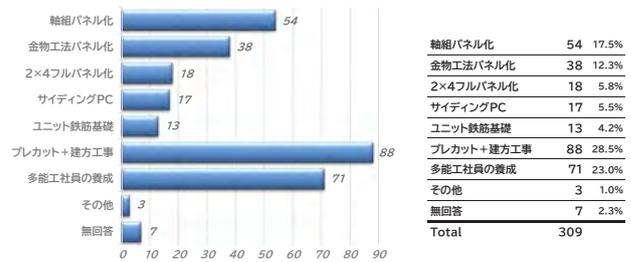
17.5%、「金物工法パネル化」が12.3%、「2×4フルパネル化」が5.8%となっており、パネル化に伴うプレカットと建方工事の一括受注、その工事を担う多能工社員の養成が主な対応策になると予想されている。

また、「Q4-3：職人不足対策で『パネル化』が求められていますか、対応されていますか？」については、「対応済」が41社（25.8%）、「今後対応予定」が10社（6.3%）、「検討中」が31社（19.5%）、「未対応」が68社（42.8%）となっており、前回調査よりも未対応の割合が増えたものの、半数以上のプレカット工場が「パネル製作+工事のセット」を対応策として捉えていることが分かった。

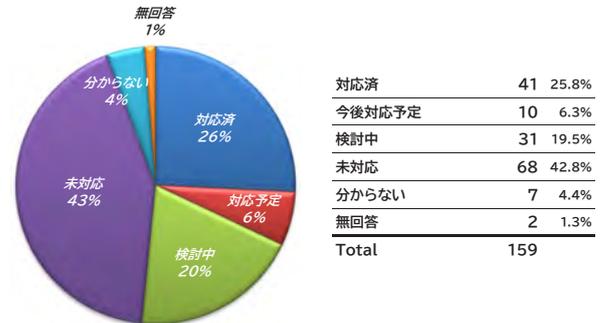
設備導入が進む中小のプレカット工場

「Q5：改正木促法でさらに成長が見込める『非住宅プレカット』ですが、設備対応されていますか？」では、「対応済」が75社（34.7%）、「今後対応予定」が24社（11.1%）、「検討中」が44社（20.4%）、「未対応」が68社（31.5%）という内訳となり、半数近くのプレカット工場が非住宅プレカットに対応した設備の導入を完了、もしくは予定しており、約2割が設備導入の検討を進めている結果となった。また、「対応済み」と回答したプレカット工場に「Q5-1：今期の年間の加工坪数は、どのくらいでしたか？」と質問したところ「～1,000坪」が22社（22.0%）と最も多く、次いで「～1,500坪」が14社（14.0%）、「～2,000坪」が11社（11.0%）、「～3,000坪」が11社（11.0%）となっており、中小規模のプレカット工場が半数以上を占める結果となった。

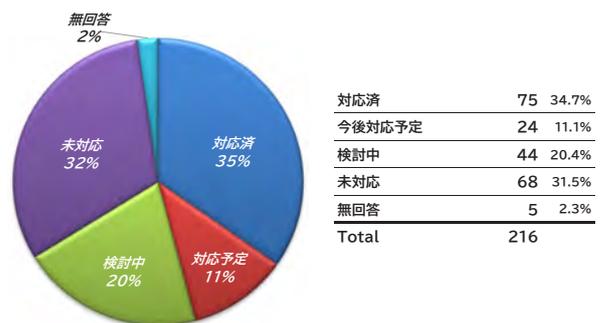
「Q5-2：どの工法で対応されましたか？（複数回答可）」では「在来軸組工法」が33.5%、「金物工法」が27.2%、「大断面工法（製作金物等）」が13.6%、「2×4工法」が6.8%、「CLT工法」が4.9%、「ATA構法」が5.3%、「P3+」が6.8%となっており、昨年と比べて在来軸組工法が数を減らした一方で、金物工法やATA構法、P3+などの大規模木造建築向けの工法が数を増やした。また、「Q5-3：非住宅の種別はどれでしたか？（複数回答可）」については、「店舗」が17.1%、「倉庫」が14.8%、「特別養護老人ホーム」が13.8%、「幼稚園／保育園」が12.5%、「サー



Q4-2：職人不足に有効な対策は、どれだと思われますか？



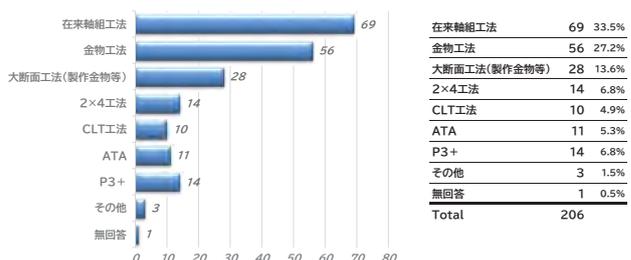
Q4-3：職人不足対策で『パネル化』が求められていますか、対応されていますか？



Q5：非住宅プレカットに対応されていますか？



Q5-1：今期の年間の加工坪数は、どのくらいでしたか？



Q5-2：どの工法で対応されましたか？

ビス付高齢者住宅」も12.5%、「有料老人ホーム」が10.9%、「畜舎」が9.9%、「小中学校」が3.9%と推移しており、昨年の調査結果と比べると、店舗・倉庫・畜舎などが減少した一方で、居住用の施設建築の需要が回復基調にある。さらに、「Q5-4：非住宅対応を行う上で、困っていることはありますか？」については、「はい」が59.4%（前回調査では48.6%）、「いいえ」が32.7%（前回調査では42.1%）となっており、非住宅プレカットへの対応で困った問題を抱えているプレカット工場はより数を増した。

非住宅の構造設計に特化したCADソフト

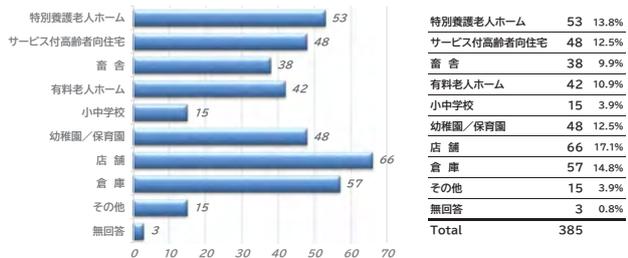
今回のアンケート調査でも、同社がリリースする非住宅の構造設計に特化したCADソフト「XF15」に関する質問が行われた。

「Q5：非住宅の構造設計に特化した、当社CAD『XF15（特許取得済）』をご存知ですか？」では、「導入済み」が34社（15.7%）、「今後導入予定」が9社（4.2%）、「利用してみたい」が47社（21.8%）となっており、半数近くが「XF15」を認知していると分かった。また、「導入済」「今後導入予定」と回答したプレカット工場に「Q6-1：端柄／合板CADの標準機能として開発された『パネル化機能』をご存知ですか？」と質問したところ、「知っている」が20社（41.7%）、「詳しく知りたい」が9社（18.8%）となっており、こちらも認知が進んでいることが伺える。

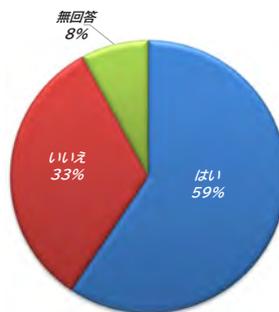
非住宅木造は一般住宅と異なる設計や工程が多いため、専用特化したCADソフトの導入により非住宅木造の全体工程での合理化を実現できる。今後、競争が激化する非住宅市場で生き残るためには、こうしたCADソフトの導入が必須になるとと思われる。

4号特例の縮小にどう対応するか？

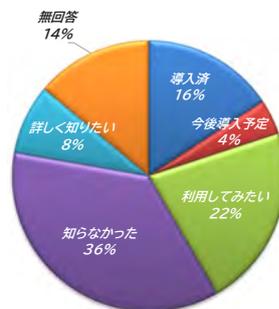
「Q7：2025年の法改正『4号特例の縮小（4号建築物という範囲が無くなる）』をご存知ですか？」の質問では、「知っている」が147社（68.1%）、「詳しく知りたい」が14社（6.5%）と、業界内における関心の高さが浮彫りとなった。また、「知っている」と回答したプレカット工場に



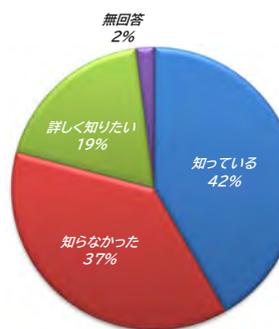
Q5-3：非住宅の種別はどれでしたか？



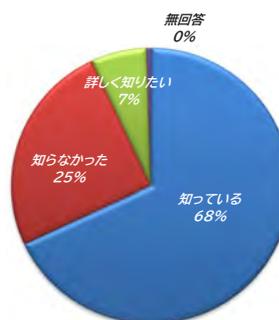
Q5-4：非住宅対応を行う上で困っていることはありますか？



Q6：非住宅の構造設計に特化した、当社CAD『XF15（特許取得済）』をご存知ですか？



Q6-1：端柄／合板CADの標準機能として開発された「パネル化機能」をご存知ですか？



Q7：2025年の法改正「4号特例の縮小」をご存知ですか？

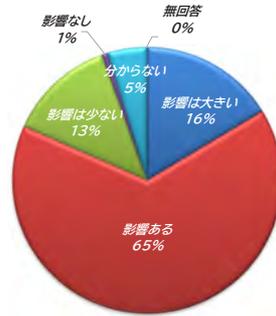
「Q7-1：4号特例の縮小は影響があると思いますか？」と質問したところ、「影響は大きい」が24社（16.3%）、「影響ある」が96社（65.3%）と、双方合わせて8割を越えた。

「Q7-2：どんな対策をとられますか？（複数回答可）」では、「壁量計算に対応」が66社（30.4%）、「許容応力度計算まで対応」が39社（18.0%）、「建築士事務所登録」が38社（17.5%）と、6割以上が何らかの対応策を打ち出している一方で、「対策を教えてください」が29社（13.4%）、「分からない」が22社（10.1%）と、対応に苦慮するプレカット工場も2割ほど見られた。

DX化が今後のカギ

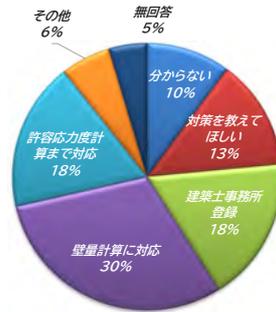
「Q8：現在どのプレカット設備を導入されていますか？（複数回答可）」の質問では、「在来軸組」が160社（普及率：74.1%）、「金物工法」が137社（同：63.4%）、「羽柄」が146社（同：67.6%）、「合板」が154社（同：71.3%）、「特殊（多種）加工機」が112社（同：51.9%）、「大断面加工機」が37社（同：17.1%）、「CLT加工機」が7社（同：3.2%）と、いずれも普及率が高まった。その一方で、「2×4直切/マルチクロス」や「2×4シージング（釘打機）」、「サイディングプレカット機」などは僅かであるが、普及率が下降に転じている。また、「Q9：現在『お客様との打ち合わせ』は、誰が行っていますか？（複数回答可）」では、「CADオペレーター」が172社（53.3%）で、「営業マン」の147社（45.5%）を上回る結果となった。加えて、「Q10：現在、工場内の製品チェックはどのようにされていますか？」では、「梱包時簡易チェック」が101社（46.8%）、「熟練者チェック」が89社（41.2%）という結果になった。

今回のアンケートを実施したネットイーグル(株)では調査結果を振り返り、「ウッドショックの反動よりも2024年問題（働き方改革）および2025年問題（4号特例の縮小）の方が『影響が出る』と考えている企業が多いと分かった。また、その対策として生産性を向上させる『パネル化』や、成長分野である『非住宅木造プレカット』の事業本格化など『DX化』が今後のカギになってくるものと思われる」と総括している。



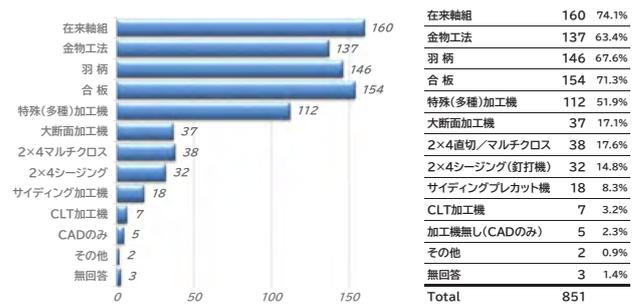
影響は大きい	24	16.3%
影響ある	96	65.3%
影響は少ない	19	12.9%
影響なし	1	0.7%
分からない	7	4.8%
無回答	0	0.0%
Total	147	

Q7-1：4号特例の縮小は影響があると思いますか？

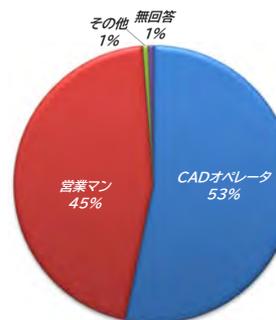


分からない	22	10.1%
対策を教えてください	29	13.4%
建築士事務所登録	38	17.5%
壁量計算に対応	66	30.4%
許容応力度計算まで対応	39	18.0%
その他	13	6.0%
無回答	10	4.6%
Total	217	

Q7-2：どんな対策をとられますか？（複数回答可）

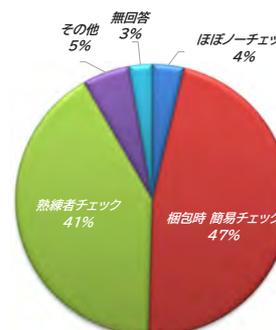


Q8：現在どのプレカット設備を導入されていますか？



CADオペレーター	172	53.3%
営業マン	147	45.5%
その他	2	0.6%
無回答	2	0.6%
Total	323	

Q9：お客様との打ち合わせは、誰が行っていますか？



チェックできていない(ほぼノーチェック)	8	3.7%
梱包時に簡易チェック	101	46.8%
熟練者によるチェック	89	41.2%
その他	12	5.6%
無回答	6	2.8%
Total	216	

Q10：工場内の製品チェックはどのようにされていますか？